

小さな命を守るために

習志野市立第一中学校 3年 有田 真優

二〇〇六年九月、僕は、予定日より二ヶ月以上早く、超低出生体重で生まれた。約四ヶ月間、新生児特定集中治療室に入った。僕は、生まれてすぐに、何回も手術をして、体中にチューブをつけられた状態で治療が続けられた。母は、毎月、高額な診療費の通知書が届き、とても困惑したと話してくれた。母は、僕が生まれた時のことを忘れないため、そして、いつか僕に真実を伝えるために、入院当時の書類を大事に取っていた。僕は、初めて生まれた時の様子、手術の内容、退院までの経過を聞くことができた。母は、入院診療費領収書を見せながら「未熟児養育医療」の給付制度のおかげで、お金のことを心配せずに治療を受けることができたと話してくれた。

母は、いつも僕にこう話す。

「あなたの命は、多くの人働きや助けによって生かされているのよ。あなたは立派な人になって、恩返しをきなさい。」

僕は、この言葉を聞いても、あまりよく意味を理解していなかった。

僕は、無事に普通の新生児の大きさに成長して退院した。その後も、手術をしたり、検査や治療をして、その度に、高額療養費制度や子ども医療費助成制度を受けてきた。

僕の十五年間は、たくさんの医療制度によって助けられてきた。

これまで、僕は受診することを当たり前と思い、治療費や薬代のことを考えたことがなかった。

今回、これらの医療制度の財源の中心となるのは税金であることを初めて知った。

同時に、母がいつも話してくれた言葉の意味を理解することができた。

僕は、改めて、僕の命は多くの人によって救われていることを実感した。僕は健康であることに感謝して、この命を大切にしなければいけないと強く思った。

これからも、僕のような未熟児で生まれても、無事に命が救われるように、充実した医療制度が続いてほしい。

そのために、僕は何ができるだろう。僕は家族と税金や医療制度について話し合ってみた。

僕たちの身の周りには、たくさんの税金が使われていることを知った。僕は、学校の机や教科書などを大切に使おうと思う。

また、税金を無駄に使わないように心がけることも大切である。僕は、すぐに医者にかからないようにするため、健康に気をつけようと思う。

僕は、母が話してくれた「恩返し」の言葉を忘れずに、将来、しっかり働いて、少しでも多くの税金を納めたい。一人が納める税金は少額でも、多くの税金が集まれば、誰かのためになり、この日本を豊かにすることができる。そう考えると、僕は嬉しくなり、より一層責任感を持って、行動しようと思う。